

ニューズレター雪氷北信越

No. 16 平成2年11月13日

日本雪氷学会北信越支部発行

目次

全国大会報告／お願い／学習会報告／講演会・学習会・見学会・講習会の案内

全国大会

1990年度日本雪氷学会全国大会の報告

90年度日本雪氷学会全国大会は、新潟県と十日町市の後援を得、10月14日から18日までの5日間にわたり、新潟県十日町市で下記の日程により開催されました。

と き：1990年10月14日(日)～18日(木)

ところ：新潟県十日町市・クロス10

日 程：10月14日(日)各種会合

10月15日(月)研究発表(口頭発表)、公開シンポジウム、臨時総会
授賞式、懇親会

10月16日(火)研究発表(ポスター発表)、ミニ見学会(市内)
各種会合

10月17日(水)研究発表(口頭発表)

10月18日(木)見学会

本大会には、全国から予想を遙かに上回る387名の多数の研究者が参加し3日間、210件の研究発表に熱心な討論が行われました。また、公開シンポジウム「雪は宝物」―地球温暖化時代における利雪の最前線―には、320名の参加があり、雪国の明るい未来像について、市民の皆様と共に語り、考え、交流する場を持つことが出来ました。臨時総会では、法人化に向けての規約の改正が満場一致で承認され、その後、今年度の学会賞の授賞式が行われました。懇親会では、そばコーナーと雪で冷やした地酒コーナーが人気を博し、十日町らしく和服姿での参加も多く、終始華やいだ雰囲気のもとで懇談が行われました。製糸工場・織物工場・利雪施設等を巡るミニ見学会には、2回ともバスの定員一杯の参加者があり、熱心な見学が成されました。最終日の見学会は、あいにくの雨の中での雪崩施設や山菜加工場の見学となりましたが、奥只見につく頃には雨も上り、紅葉の湖を満喫しつつ、越後湯沢駅で全大会の日程を終了いたしました。

5日間を通じて大会は盛会で、好評のうちに無事終えることが出来ましたことを報告すると共に、本大会の開催にあたり御協力いただいた多くの方々に心より深く感謝申し上げます。(実行委員長 遠藤八十一 記)

お願い

賛助会員各位

支部長 中村 勉

法人化用基金のための特別会費のお願いについて

すでに会誌「雪氷」等で御承知かとは存じますが、現在、本日、本雪氷学会は新年度を目途として、社団法人化に向けていろいろと準備活動中であります。法人化は本会の長い間の懸案事項でありましたが、法人化のための基金の関係もあり、仲々決断し兼ねないでおりましたが、本学会が1/2世紀の歴史を有するに到りました現時点で、いよいよ法人化する決意を致しました。

しかし、法人化のために基金が未だ不十分であります。この不足分の充当につきましては、新たに設けた法人化小委員会や常任理事会における種々の議論や当学会の顧問の方々からのご意見を基に、最終的には理事会での議決を経て、今年春の総会でも御承認を戴いておるところですが、正会員と賛助会員の方々から特別会費として1年分相当額を納入して戴き、これを充当することと致しました。

特別会費の納入期限を、本年12月17日と決めさせて戴きましたので、近日内に支部役員が参上、あるいは参上できない場合には、電話と郵送等でお願ひ致しますので、出費多端の折りとは存じますが、何卒、法人化への趣旨を御汲みとりの上、御協力を賜わります様、お願ひ申し上げます。

尚、正会員からは既に、目標額の60%を上回る特別会費の納入を戴いていることを申し添えるものです。

学習会

第7回 富山地区学習会の報告

学習会は9月21日富山大学理学部において、幹事長早川典生長岡技術科学大学教授の「積雪データは語る」とテーマで行われた。小雪の数年続く確率や、積雪の年変動にひそむ周期性などを確率過程論から導くもので、我々が日頃素人的に論議している問題だけにきわめて関心が高かった。参加者も17名と盛況であった。また、電力関係など生活や経済に直接反映する問題でもあり、このところの暖冬傾向は果たしていつまで続くのかなど、参加者からの質問も多かった。

(記 石坂)

○第4回新潟県雪対策研究会のお知らせ

日 時：11月30日（金）9:00～12:30 会 場：朝日生命ビル（長岡市）

問合先：新潟県企画調整部地域振興課雪対策室 TEL.025-285-5511

講演会	富山地区講演会案内
日時	平成2年12月22日(土) 13時～16時
場所	富山大学黒田講堂会議室
話題	富山大学雪氷学講座における研究の回顧
講師	庄子 仁(雪氷学講座助教授) 川田 邦夫(雪氷学講座 助手) 対馬 勝年(雪氷学講座 教授) その他
	講演会は富山大学雪氷学講座、同10周年記念事業会と共催で行なわれます。10周年記念誌の配布、卒業論文集、教官論文集の展示も予定しています。

学習会	新潟地区第6回学習会のお知らせ
日時	平成2年11月22日(木) 13:30～15:30
場所	新潟大学積雪地域災害研究センター
話題	中国黒龍江省の雪氷災害対策事情－日中共同研究の可能性－
講師	大沼匡之(日本雪氷学会顧問)
	佐藤和秀(長岡高専助教授)
	中国黒龍江省公路局では3年計画で道路の雪害対策の研究を計画しており、日本の雪氷研究者の協力を望んでいます。当地を訪れその事情に詳しいお二人からスライドを写しながらお話を伺い、共同研究の可能性を探り中国の雪氷研究事情を学習したいと思えます。多数の参加をお待ちしております。 問い合わせ先：新潟大学積雪地域災害研究センター 小林(電025-262-7052) 和泉(電025-262-7054)

学習会	富山地区第8回学習会のお知らせ
日時	平成2年12月7日(金) 18時～20時
場所	富山大学理学部2号館 中会議室(2階)
話題	最近の極地研究から 小野 延雄(国立極地研究所教授) 米国寒地理工学研究所案内(ビデオ紹介) 板垣和彦(CRREL) 初めの10分ほど支部活動の案内、雪氷関係のニュース、参加者間の連絡を予定しています。

学習会

新潟地区第7回学習会のお知らせ

日時 平成2年12月15日(土) 13時～14時30分
場所 新潟県教職員互助会『けさじろ荘』(長岡駅徒歩5分) 0258-33-7400
話題 極地氷床氷の物性と氷床のダイナミックス
講師 長岡技術科学大学 東 信彦 助教授
南極の氷の物理的性質を解明することにより、南極の氷床の運動メカニズムに迫り、南極の過去から将来を推定する。
問合先 長岡技術科学大学建設系 小池俊雄 (0258-46-6000内線6124)

見学会

新潟地区見学会 予告

長岡市周辺の融消雪施設を訪ねて

消雪パイプの普及で知られた長岡市にも先端的な融消雪施設の試みが諸処に見られます。当支部ではそれらの施設の見学会を予定しています。消雪パイプを乗り越える技術が求められている今日の、技術の最先端を垣間見る本企画に多数の皆様のご参加を期待します。

日時 平成3年1月25日(金)
見学コース(予定) 長岡ニュータウン(屋根雪融雪施設)－新産センター(無散水型融雪施設)－JR長岡駅(屋根融雪設備と新幹線消雪基地)－長岡雪氷防災実験研究所(雪処理技術の最先端)
※詳しい予定や参加申し込み方法については、1月10日発行予定のニューズレター17号にてご連絡致します。(早川幹事長 記)

講習会

新潟地区講習会&学習会の予告

1泊2日(日帰り参加可能)な積雪断面観測&スキー講習会とスライド映写会を中心とした学習会を、中越地方のスキー場にて、平成3年2月23日(土)～24日(日)に企画しております。詳しい予定や参加申し込み方法は、1月10日発行予定のニューズレター17号にてご連絡致します。

○第15回雪氷防災研究会『雪国をとりまく環境の変化とその影響』お知らせ
日時: 11月29日(木)9:30～16:40 会場: シティ・ホール・シヨウカイヨウ(3階会議室)
主催: 科学技術庁防災科学技術研究所長岡雪氷防災実験研究所
氷17分析から分かる近年の地球環境変化/雪環境による被害の種類/日本海側の酸性雨・酸性雪の観測/積雪環境が農作物の生育に及ぼす影響/雪国における森林の機能/冬期路面について/凍結防止剤の種類と使用状況/雪国の変遷に応じた雪輸送方式－空気力雪輸送－
問合先: 長岡雪氷防災実験研究所小林俊市氏又は管理係 TEL(0258-35-7522)